

講評

I

出典 青柳 正規「文化立国論：日本のソフトパワーの底力」

芸術家支援に関するヨーロッパと日本との違いを述べた文章です。難しい文章ではなく、丁寧に読み内容を理解することで解答可能だったと思います。

問1【漢字問題】（解答番号は①～⑥）

正答を示しておきます。全問正答率は、1.3%でした。

a いこ b 浴 c はいちやく d 前身 e 境遇 f 自慢

問2【空欄補充 文脈把握】（解答番号は⑦）

空欄Ⅰには、「フランスでは～」と「イタリアには～」の二つの段落の内容が係っているの、「制度」や「施設」では不十分で、「仕組み」が当てはまります。よって正答は④となります。正答率は62%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】（解答番号は⑧・⑨）

空欄Ⅱには、親が諦めて受け入れるという意味が入るため、正答は⑥となります。中央進出という大きな賭けに破れたとしても「困らない」ための背景を考えると、空欄Ⅲには⑤が入ります。正答率は40%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号は⑩）

空欄Ⅳから順番に当てはまるものを入れていくと、正答⑥が導かれます。ほとんどの受験者が正答でした。

問5【空欄補充 文脈把握】（解答番号は⑪）

「道楽者」、「穀潰し」、「親不幸」が並列されて空欄Ⅷに係っているため、前記の三者を包括する②が正答となります。正答率は78%でした。

問6【空欄補充 文脈把握】（解答番号は⑫）

空欄Ⅸには「わが町の英雄」に当たる語句が入るため、正答③が導かれます。約90%が正答していました。

問7【空欄補充 文脈把握】（解答番号は⑬）

この段落には、芸術家は周囲から誉められたりおだてられたりして才能を伸ばすという旨が書かれています。この内容を「要するに」とまとめているため、空欄Ⅹの正答は④となります。この問題も、約90%が正答していました。

**問8【傍線部の説明 内容理解】**（解答番号は14）

適当でないものを選択します。④の内容自体は本文に書かれている通りですが、「芸術家が育ちやすい環境」とは言えないため、正答は④となります。正答率は70%でした。

**問9【傍線部の説明 内容理解】**（解答番号は15）

適当でないものを選択します。③の「生活の保障があること」は「中央で通用する確証につながる」わけではないため、正答は③となります。正答率は78%でした。

**問10【小見出し 内容理解】**（解答番号は16）

正答は②です。正答率は83%でした。

**問11【内容合致】**（解答番号は17・18）

正答は③・⑦です。本文をよく読んで選択肢と照らし合わせれば解答できます。2つとも正答した人は全体の43%でした。

## II

出典 佐々木 閑「科学するブッダ 犀の角たち」

無理数が古代ギリシャのピタゴラス学派にどのような数として受け止められたかを中心に論が展開します。有理数と無理数の違いを彼らがどのように理解したのかを把握することがポイントになります。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は19～25）

a 勘定 b 端麗 c 転生 d 専心 e 逸話 f 完璧 g 終始

全問正答者はいませんでした。「専心」、「終始」などの基本漢字が書けていませんでした。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は26～28）

空欄【甲】は、直前の「苦肉の」あるいは「方」と結びつく言葉であることがヒントです。正答は⑤です。空欄【乙】は、直前の「調和の」と結びつく言葉であることがヒントです。正答は④です。空欄【丙】は、受け入れた結果をどのように捉えるかがポイントになります。正答は⑤です。正答率は、それぞれ90%、10%、56%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は29）

無理数は直覚では理解できず、空欄【Ⅲ】「の結果現れた」と述べていることから、前の段落の要点である「証明」が空欄【Ⅲ】に入ります。前の段落で述べている「いくつかの公理と、独特ではあるが万人が納得せざるを得ない理論を組み合わせる」ことから「定理」が導かれるため、空欄【Ⅱ】には「定理」が入ります。空欄【Ⅰ】は空欄【Ⅱ】との関係から「真理」であることが理解されます。正答率は47%でした。

問4【空欄補充 内容理解に関する問題】（解答番号は30）

$\sqrt{2}$ は「実際には正確に書き表すことができない」「気持ち悪い姿」と述べているので、その状況を示す表現を選択します。正答は⑥です。正答率は38%でした。

問5【空欄補充 内容理解に関する問題】（解答番号は31）

前の段落で、ピタゴラスは「同時に神秘宗教教団の教祖」と述べていることがヒントです。正答は①です。正答率は74%でした。

問6【空欄補充 内容理解に関する問題】（解答番号は32）

直前に「どうしてもその存在を認めざるを得なくなった」と記されているので、正答が導けるはずですが。正答は⑤です。正答率は66%でした。

問7【空欄補充 内容理解に関する問題】（解答番号は33）

自分たちが作り出した証明によって無理数を生み出し、同時に神の視点を殺したという関係を適切に捉える表現がポイントになります。正答は⑥です。正答率は65%でした。

問8【傍線部の説明 内容理解に関する問題】（解答番号は34）

後段を読み進めると、「我々の思考そのものの中に」ある「神の視点を否定していく」力が「論理思考」であり、数学では「直覚と論理思考」がせめぎ合って「人間化」が進んできたことと記されることがポイントです。正答は⑤です。正答率は48%でした。

**問9【傍線部の説明 内容理解に関する問題】**（解答番号は35）

前段の「証明という操作」の本質が人間的であるとの記述は、さらに前の段落の「有理数世界への無理数の導入が数学の人間化だとするなら」という記述を受けたものであることがポイントです。正答は⑥です。正答率は51%でした。

**問10【内容合致問題】**（解答番号は36）

正答は③です。ピタゴラスに連なる数学者は神秘宗教教団の構成員でしたが、このことが数学の人間化の基本構造になっているとする記述は誤りです。正答率は48%でした。